

搾乳の起源から学ぶこと

A

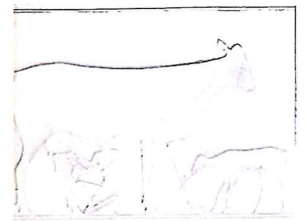
人が牛乳を飲用し始めたのは今から 5000 年ほど前のことです。紀元前 3000 年頃、メソポタミアのシュメール人は牛乳を搾り、神に捧げ、貴族はそれを飲んでいました。この頃は、牛のま後ろに座って後肢の間から搾乳していました[写真1]。これは山羊や羊の搾乳法を牛に用いたためといわれています。

その後、牛乳を飲む文化はエジプトに伝わり、紀元前 2100 年頃のレリーフには現在のよ
うに牛の横から搾乳している図が残っています[写真2]。

以上 中央畜産会「畜産 ZOO 鑑」より http://zookan.lin.go.jp/kototen/rakuno/r421_3.htm



[写真 1]



[写真 2]

左[写真1]をご説明します。

写真家「野町和嘉:地球巡礼」(2005)の、「ナイル」のコーナーに載っています。以下は、その注釈です:

「雌牛の子宮に息を吹き込み性的刺激を与えることで、牛はいっそうミルクを出す。少年の右手は乳房を軽く揉んでいる。この後、乳首から搾り出すミルクが、ヌエル族の少年には唯一の朝食である。」

この写真は、かなり前から気になっていた写真なのですが、ようやく出展が分かったのでご紹介できます。この写真は色んな事を教えてください。

5000年前からミルクは、世界中の人間の生命を支え続けているのですね。それにしてもシュメール人同様の方法で搾乳し、生活しているアフリカのヌエル族が、未だに存在する凄さ。

しかしながら、牛からミルクを搾って生活すること自体は、我々と同じわけです。一方で技術論になりますが、ヌエル族の少年はオキシトシンの出方を知ってやっています。これも驚きです。さて、この写真をご覧になった後、あらためて、最近佐竹さんが「ラクトコーダー」で盛んに説明している「正しい搾乳」について、しっかりご理解下さいませ。